

みんながえらんだ本

たのしかった本：大人の本

『BORN TO RUN 走るために生まれた：ウルトラランナーvs 人類最強の“走る民族”』

（クリストファー・マクドゥーガル/著；近藤 隆文/訳，日本放送出版協会）

紹介文 住之江図書館の司書：住之江図書館で働いています。

“走る”ということ突き詰めて考えるうちに、メキシコのタラウマラという民俗に行き着いた著者と、走ることに魅せられたランナーたちの物語です。

私自身は走ることに興味などなく、友人が「走るのって楽しいよ！」と言おうものなら「ちょっと何言ってるかわかんない」と返すくらいなのですが、この本で描かれるランナーたちの、走ることに對する悦びと興奮は、ちょっとうらやましくなるくらいです。

借りた人からの感想： OKIRAKUTOMBO

この本との出会いは偶然としか言いようがない。

趣味でジョギングをしているのだが、この本をチョイスした2週間前、初めてウルトラマラソン（本当はウルトラマラニック【※マラソン+ピクニックでウルトラ何某よりもハードルの低い競技】に参加したばかりだったのだ。

70kmを完走したのだが、気分はまさに登場人物のセリフにでてくるものそのままな感じ。

ランニングした方でないとう理解できない世界をウルトラマラソンに参加して垣間見たのですが、本の通りでした。

えーと、さすがに裸足で走ろうとは思わないけど…

（参加したレースでも裸足のランナーを複数目撃したよ～！）

『あなたに不利な証拠として』（ローリー・リン・ドラモンド/著；駒月 雅子/訳，早川書房，）

紹介文 （名前無し）

タイトルの由来は、犯人逮捕の際に告げることを義務づけられた「ミランダ警告」から。この冷静な建前の遵守と、犯行現場の凄まじさや荒んだ警察官の心のギャップが現実という謎か。皮膚感覚に訴える描写も的確で、辛口でスリリングな読書体験となる。10の短編が微妙につながっているのも味わい深い。

借りた人からの感想： （名前無し）

警察の仕事ぶりなど興味を引くところもあったが、読後に心に残るものがなかった。（私の好みに合いませんでした）

『居酒屋ぼったくり』（秋川 滝美/[著]，アルファポリス 星雲社（発売）

紹介文 イルカ：普段はヘルパーをしています

楽しく、美味しい本でした。お料理のレシピもあり、自分でその通り作ってみました。へえ、こんな組み合わせがあるのかと発見がありました。ぜひ、読んでみてください。

『犬はどこだ:THE CITADEL OF THE WEAK』（米澤 穂信/著,東京創元社）

紹介文 （名前無し）

挫折から再起を図ろうとする主人公が巻き込まれる事件のなかで、いかに推理をはたかせ、物語の断片が収斂していくか。ネタがわかっても、何度も読みたくなる魅力にあふれたおすすめの一冊です。

「隠蔽捜査」シリーズ （今野 敏/著,新潮社）

紹介文 ひったん：ふだん、お寺めぐりをしています。

テレビドラマにもなったシリーズです。主人公の警察キャリア、竜崎が独特で、とてもおもしろい!でてくるキャラクターがはっきりしていて読みやすいです。長編のものと、主人公以外の視点の短編もあり、すべて読みたくなるかと・・・

図書館より：シリーズでの紹介をいただいたので、第1巻を福袋にしました。

『嘘みたいな本当の話：〈日本版〉ナショナル・ストーリー・プロジェクト』

（内田 樹/選；高橋 源一郎/選,イースト・プレス）

紹介文 かし：私大教員をしています。

「事実は小説より奇なり」を地で行く本。アメリカのラジオでかつて行われた「ナショナル・ストーリー・プロジェクト」。人生でおこった奇妙で不思議だが貴重な体験・事実を書き記したものを、有名作家が朗読したという。その日本版ともいえる本。

内田樹、高橋源一郎という文化人が選んでいる。読んでいるうちに自分にもこんな経験があったらなあと思いあたる。こういう話が「都市伝説」のすそ野を形づくっているのかも。「あとからぞつとした話」などのジャンルも面白い。

『大阪ビル景』（石原 祥/写真・文,光村推古書院）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

大阪のビルって、めったやたらと高かったり、ちょっと変わった形をしていたり、個性的なものが多いと思います。そんな本です。

街歩きのガイド的に読むもよし、お気に入りを見つけるのもよしと思います。

私は、大阪ガスビル（p.72）と、入ったことないけど

- ・大阪木材仲買会館（p.111、大阪市立中央図書館の近くにありますが）
- ・味園ビル(p.105)

が、とても気になる物件です。

借りた人からの感想： ルノワール

面白い本を紹介していただき、ありがとうございました。

前を通ったことのあるビルもたくさんあり、楽しく読ませていただきました。

梅田方面は、どんどん開発が進み、新しいビルが増えていますね。新しいビルを訪ねるのも楽しいし、本町周辺のレトロなビルをめぐるのも楽しいです。

本町のオーガニックビルは知らなかったなので、ぜひ訪ねてみたいと思います。

『怪獣博士！大伴昌司「大図解」画報』(堀江 あき子/編, 河出書房新社)

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

子どもの頃は、この人の絵がとてもとても怖かったです。

いま見ると、懐かしく感じるやら、カッコいいやら、とても変な気分になります。

たくさんのイラストが掲載されていますが、絵の横に書かれたコピーもいいです。

- ・「地底は怪獣でいっぱい」(p.40)
- ・「宇宙船をたべる！金星妖怪群」(p.81)
- ・「これが未来だ！きみの知らないおそろしい世界」(p.84)

『海底二万海里』(J. ベルヌ/作；清水 正和/訳；A. ド・ヌヴィル/画, 福音館書店)

紹介文 ひまわり：主婦をしています。

古典的名作のこの本を、子供のころに読まれた方も多いと思いますが、大人のあなたに是非もう一度読んでみてほしいです。

フランス生まれの作者ベルヌが今から 146 年前（明治 2 年）に書かれたとは思えないほど、驚異と神秘に満ちた海底の世界にひきこまれます。

ネモ艦長の潜水艦で・・・

『傍聞き』(長岡 弘樹/著, 双葉社)

紹介文 マルサン

この本の表題作と「迷走」が好きです。長岡弘樹は駄作がないので安心して読めます。08 年度の日本推理作家協会短編部門受賞作です。

借りた人からの感想： OKIRAKUTOMBO

日頃はあまり推理小説は読みません。

でも、この本に出会えて良かったと感じています。

「傍聞き」、この小説のなかにはいくつも伏線が隠されています。そのどれもに関連性があって、最後には「へえ～」と思わせる結末が・・・

思わず、再度読み返してしまいました。

読めば読むほど、さらに味わいのでる逸品、良作でした。ほか、「迷い箱」も佳作です。

『きもかわくん:不思議でかわいい生物たち』(アスペクト)

紹介文 クー：図書館の仕事をしています。

最近、疲れているナと思っているあなたへ。この本を見て楽しんでください!!!地球上にはいろんな生き物がいて生活しています。生き物たちのある瞬間をとらえ、その姿に笑ってしまう、そんな本です。きっと心が和んで笑顔になることでしょう。地球の仲間たち、生きもののバンザイ。

『薫香のカナピウム』（上田 早夕里/著, 文藝春秋）

紹介文 （名前無し）

図書館より：ご紹介された方から特にメッセージをいただけなかったのですが、少しだけ、かわりにこの本を紹介します。遠い未来の熱帯雨林に暮らす少女を主人公に、その世界の謎を描いたSF作品で、丁寧な描写が好評を得ているようです。

『この本は怪しい!!!：日本一のモーレッツ・ブックガイド』（洋泉社）

紹介文 住之江図書館の司書：図書館で仕事をしています。

間違いなくブックガイドの極北。読み手をかなり選ぶ本ですが「面白い」と思っただけの方にはとても楽しんでいただけたと思います。

ちなみに「活字秘宝 vol.1」とありますが、2はたぶん出ていません。

『最終便に間に合えば』（林 真理子/著, 文芸春秋）

紹介文 Pecco：パート、主婦をしています。

もう一度、若い日に帰れる本。

借りた人からの感想：星の王子さま大好きなバアバ

林真理子かあ！来年 75 歳を迎える私。

恋愛ねえ、遠い昔の話だなぁ。

「京都まで」が一番心に残ったデス。

年上の女性の切ない思い、よかったナア。

シングルマザーが多くなったけど、この小説みたいにホイホイ遊んで、もし子どもがいても、自分の気持ちを優先して、のりかえる？

ドメスティックバイオレンスでもない限りがんばれ！！

50 年、結婚生活をガンバった私、ほめてあげたいヨ。

『裁判官の爆笑お言葉集』（長嶺 超輝/著, 幻冬舎）

紹介文 友達は愛と勇気だけ:わたしは、ふだん、住之江区内で仕事をしています。

右ページに裁判官の「お言葉」

左ページにその解説

右ページだけながめていても面白いです。

『13 階段』（高野 和明/著, 講談社）

紹介文 はちまま：兼業主婦をしています。

映画化もされた作品なので、ご存知の方は多いと思います。

本当におもしろかった！

刑務間と仮釈放された青年が、冤罪で死刑判決を受けた男の疑惑を晴らすお話ですが、それだけではなく、死刑制度の話、服役囚の想いなど、人の心情をからめて進むお話に夢中になりました。

松本清張好きにはおすすりめです。

『十四歳の遠距離恋愛』（嶽本 野ばら/著, 集英社）

紹介文 はちまま：兼業主婦をしています。

ゴスロリ好きの女の子が、昭和の香りがする柔道好きの男の子とする恋愛話です。はみ出しものがくつついた状態です。

話の序盤で男の子が引越してしまい、中学生の二人が必死で考えて遠距離恋愛をする姿が楽しくて仕方ありません。

中学って、こんなに周りが見えてなかったっけ。中学時代を思い返してしまいました。

『進化しすぎた脳：中高生と語る〈大脳生理学〉の最前線』（池谷 裕二/著, 朝日出版社）

紹介文 （名前無し）

人間の知覚認識がもつ限界は、脳よりもむしろ、そこにつながる身体にあるという。身体が変わればそれに応じて脳の地図は書き換わる。人間が違った感覚器をもって世界を知覚したなら、可塑性のある脳はそれに応え、まったく今とは異なる世界がみえてくるのかもしれない。脳はなにかを思い出して考えること一つで自らを変容させることができる。そこは光さざめく無限の宇宙である。

『新耳袋（扶桑社、1990 年版）』（木原 浩勝/著；中山 市朗/著, 扶桑社）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

百物語形式の怪談本。

一つ一つの話は短いので、とても読みやすいと思います。関西ネタが多いのもグッドです。

この本は 1990 年発行ですが、その後、1998 年に出版され直しました。なんでも、100 話を収録したこの本を一夜のうちに読んだ人から、実際に本当の怪が起こったという報告が相次いだため、編集して 99 話にまとめたものを出しなおしたそうです（出版社も変わっています）。そんなトコも含めて、私はこの本が大好きです。

借りた人からの感想： OKIRAKUTOMBO

すいません。さすがに苦手なタイプの書物でした。

読んだ場所は通勤中の電車内だったのが幸いした？のか、なんとか読了できました。

『新釈遠野物語』（井上 ひさし/著, 新潮社）

紹介文 イワシボウ：調べものをしたり、楽器をいじったりしています。

以前、友人が面白いと言っていた本です。私も読んで笑いました。柳田國男の「遠野物語」を思い浮かべておりましたが、なるほど井上ひさし版遠野物語と合点しました。落語仕立てで桂米朝や枝雀が演じている姿を想像するのも一興かもしれませんね。

『大誘拐』（天藤 真/著, 東京創元社）

紹介文 マルサン

和歌山の山林王、柳川家の当主のおばあさんを誘拐するが、身代金の額が少なすぎるとごねるおばあさん……。ユーモアミステリーの名手、天藤真の最高傑作だと思います。第 32 回日本推理作家協会会長編賞受賞。VHS ビデオが淀川図書館にあります。緒方拳主演、岡本喜八監督・脚本。

「図書館戦争」シリーズ(有川 浩/著； 徒花 スクモ/イラスト, メディアワークス)

紹介文 はちまま：ふだんラノベばかり読んでいます。

ドラマ化、アニメ化、コミカライズされた、とても有名な作品です。本編と別冊がありますが、私はだんぜん別冊の方が好きです。麻子さんのとてもカッコいい女子っぷりが読めます。

“強い女性”が大好きな私。この本読むとすっきりできます。ストレス解消にもおすすめです。

『盗まれっ子』（キース・ドノヒュー/著； 田口 俊樹/訳, 武田ランダムハウスジャパン）

紹介文 （名前無し）

図書館より：ご紹介された方から特にメッセージをいただけなかったもので、少しだけ、かわりにこの本を紹介します。欧米に伝わる「取りかえっ子（チェンジリング）伝説を題材にしたファンタジーであり、過去の人生と向き合い、未来に向けて進むことをテーマにした作品です。

『人質の朗読会』（小川 洋子/著, 中央公論新社）

紹介文 カレンダー：事務をしています。

とてもきれいな情景がはっきりと浮かんでくる本でした。

借りた人からの感想：菅笠

ひとつひとつの話が、ゆったりとし、やさしい読後感が残りました。

同時に、この話を語った人はもういないという切なさにしんみりもしました。

自分で借りることはないであろう本だったので、こういう形で読むことができたのがうれしかったです。

ありがとうございました。

『ひなた弁当』（山本 甲士/著, 中央公論新社）

紹介文 住之江かもめ：本に係わる仕事をしています。

たまたま立ち寄った本屋で目にした本です。今まで選ばなかった種類の本ですが、読みやすく、おもしろかったです。

『百年の恋』（篠田 節子/著，朝日新聞社）

紹介文 チューチャン：図書ボランティアをしています。

随分前に読みました。作風は少し違った作品でしたが、楽しく読め、印象に残っています。

借りた人からの感想：ルノワール

読みやすく、一気に読めました。

真逆な夫婦の組み合わせも面白いですし、真一が妻にやきもちを焼いて悩む姿もいじらしかったです。最後に、真一そっくりな赤ちゃんが産まれてくるのもおかしかったです。働く女性の問題や託児所を探す難しさなど、色々なことに気付かされました。

『比類なきジーヴス』（P.G. ウッドハウス/著；森村 たまき/訳，国書刊行会）

紹介文 くろすけ：アルバイトをしています。

この本の作者 P.G.ウッドハウスは、英国王室直々にナイト爵を授与され、女王陛下にも「個人的なプレゼントをいただけるとしたら、彼の著作が全てほしい」とまで評される、まさに英国文学界を代表する作家のひとりです。

そして、この作品はといいますと、貴族文化華やかなりし世の貴族とその執事の、上流の生活を描いた物語となっています。

・・・それって何だかすごく「おかしい」イメージだし、そう言われてみれば表紙も硬派・・・これはもしかして文学的な難しい本？

そう訝しんだあなた、ご安心ください。そんなあなたこそこの本を楽しめるはずです！

なんとと言ってもこの本、ジャンルは「コメディ」。開いてみるとすごいんです。

お人よしの若旦那と頭脳明晰な執事コンビのテンポのいい会話が楽しめるだけでなく、当時のイギリス貴族社会の雰囲気も感じられる一作となっています。ぜひご一読を！

『ファイヤーボール』（原 宏一/著，PHP 研究所）

紹介文 リリー：ふだん、Jリーグ観戦をしています。

これだ！と決めたことをやっていると、意外と何とかなるもんだ。気楽に読んでください。

借りた人からの感想：ラク

久々にノンストップで読み進めました。とってもおもしろかったです。

何かに一所懸命取り組むって、いいなあ。

『不思議の国のアリス』

（ルイス・キャロル/[著]；河合 祥一郎/訳，角川書店 角川グループパブリッシング(発売)）

紹介文 はちまま：兼業主婦をしています。

今年は「不思議の国のアリス」が刊行されて150年となる記念の年です。有名なお話で映画化、アニメ化されている作品ですが、この機会に、ぜひ、ワンダーランドを味わって欲しいです。

ちなみに、この物語に出てくるキノコが私は欲しくて溜まりませんでした。体が大きくも小さくもなるなんてすごく便利！！

『武装島田倉庫』(椎名 誠/著, 小学館)

紹介文 菅笠

古い本ですが、昔から何度も読んでいる本です。

荒廃した世界で、したたかに生きてゆく人々と、シーナさん独特の名前がつけられた不思議で怪しい生物、植物、モノが魅力です。

借りた人からの感想：あっきー

おすすめ、ありがとうございました。

小説は読んだことがあるものの、SF？は初めてだったのですが、独特な世界観や不思議な雰囲気のおかげか、するすると読み進められました。

読み終わった今は、本の中の世界をさまよっているような、現実に取り残されているような、とてもふわふわとした気分です。読んでみて、面白い本でした。

たのしかった本：児童書

「IQ 探偵」シリーズ(深沢 美潮/作；山田 J太/画, ジャイブ)

紹介文 Aりん：小学生をしています。

IQ 探偵シリーズは、ムーとタクトの二つのシリーズがありますが、どちらもおもしろいです。私はムーの方が好きですが、タクトもおもしろいです。どちらも、とってもシリーズが長いので、気に入ったら、2巻、3巻と読んでみてください。

図書館より：「ムー」と「タクト」どちらもオススメされているので、両方とも福袋に入れてご提供しました。

『嵐の大地 パタゴニア』(関野 吉晴/著, 小峰書店)

紹介文 わたしは、ふだん、図書館通いをしています。

未知の世界探検が好きだから。

「一期一会」シリーズ(マインドウェイブ/キャラクター, 学研)

紹介文 あやのちん：学校に行ってます

友達の話や恋の話などがみれるし、絵もかわいく、自分自身が体験したかのような気持ちになるよー！なんども、読み返したくなるくらいいい話がつまっていて、本当いい本です。

借りた人からの感想：みさき

『一期一会』読みました！

この本は楽しかったです！

福袋なんて初めてだったので、うれしかったです\ (^o^) /

『一期一会』を選んでいただいて、ありがとうございました！ 小5より
図書館より：福袋には『一期一会伝えたいコト。』を入れてご提供しました。

『いっきよくいきまあす』（長谷川 義史/さく・え, PHP 研究所）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

仕事柄、色々な絵本を読んできましたが、かぐや姫と石川さゆりと山本リンダの曲を歌えないと読み聞かせできない絵本は初めてです。

あと、曲紹介のところは浜村淳ですね。

大好きです。この絵本。

借りた人からの感想：（名前無し）

7歳の子どものが借りてきました。

父も母も全曲歌えました。演歌、はじめてうたいました。

子どもたちは、知らない歌もあったようですが、

後日、「うえのはつのやこうれっしゃ〜うたいたいー！」と本をひっぱりだしてきました。

これで昭和歌謡、平成27年に伝承されていくことでしょう。

読むには時間と気力・体力、余裕がいりますね。

7歳より：おもしろかったよー！とくに、とくてんなしで、バシッとするとこが。

「オンライン！」シリーズ(雨蛙ミドリ/作；大塚 真一郎/絵, KADOKAWA)

紹介文 Aりん:小学生をしています。

『オンライン！』は「ナイトメア」というゲームを攻略していく物語です。私は「ナイトメア」が本当にあつたら、とてもこわいと思います。

住之江図書館においてほしくて書きました。

『オンライン！』とっても面白いです。ぜひぜひ読んでください。

図書館より：福袋には第1巻を入れました。

『かいけつゾロリ』（原 ゆたか/さく・え, ポプラ社）

紹介文 なかピー：ふだん、ゲームをしています。

たくさん本がでていて、どんな話か毎回ドキドキします。

借りた人からの感想：7才

ぼくも、ゾロリだいすき。

でも、これは、よんだことがなかったよ。

おもしろかったよ。ありがとう。

図書館より：人気のかいけつゾロリです。シリーズでたくさんの作品があるため、福袋にはシリーズ1作目『ドラゴンたいじ』をご用意しました。

『ガンジーさん』（長谷川 義史/著, イースト・プレス）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

大人の方へ

実在の人物をモデルにした絵本・・・という重いですが、こんな感じの描かれ方だと和んでしまいます。

「にんげんはカトリセンコー」のところは Youtube かなにかで検索するとご本人が歌っているところがアップされているので、節回しがわかると思います。

子どもの人へ

ガンジーさんという人は、ほんとうにいるそうです。ぼくはガンジーさんにあいたいとおもっています。

チャーハンをおかずにごはんをたべるガンジーさんをみたいです。

図書館より：ガンジー石原さんについては、故・中島らもさんがエッセイで触れておられます。『西方冗土』という本に納められていて、福袋にはこの本も一緒に入れました（もっと多くの紙幅を割いてガンジーさんを取りあげた文章があったと思うのですが、失念しました）。

「黒魔女さんが通る」シリーズ(石崎 洋司/作； 藤田 香/絵, 講談社)

紹介文 つよぼん：学校に行ってます。

「は、は、は」とわらいたくなるような本です。ぜひ読んでください。

図書館より：福袋には第1作目にあたる『黒魔女さんが通る！！チョコ、デビューする』を入れました。

『たびいえさん』（北川 チハル/作； 青山 邦彦/絵, くもん出版）

紹介文 わたしは、ふだん、一輪車をしています。

たびいえさんが、たびをするところがおもしろいです。

わたしは、いつもとしょかんへ行って、たくさん本をよんでいるんですが、その中で一ばんおもしろかった本です。

図書館より：お名前欄に本名と思われる名前をかかれていましたので、こちらでお名前だけ消しました。

『ちいさなうさこちゃん』（ディック・ブルーナ/ぶん え； いしい ももこ/やく, 福音館書店）

紹介文 もも：ふだん、べんきょうをしています。

うさこちゃんがかわいかったヨ。

かわいくて、きもちがたのしくなりましたヨ（〇^▽^〇）

借りた人からの感想：スマイル

うさこちゃんかわいいね！！

みんなやさしいですね！！

てんしもよかったかな！？

『ねこのミロ』（長谷川 摂子/さく；しも ゆきこ/え, 福音館書店）

紹介文 はちまま：わたしは、ふだん、三児の母をしています。

ある日、ぼくのねこがいなくなった。なかなか帰ってこないねこを探そうと、本の世界へとびこんだ。ついたそこはねずみの町。ねこの町にいく方法を教えてもらうため、にがい、どろみずコーヒーを飲む。けど、教えてもらえたのは、一つ目のおばけの町。さて、ぼくのねこは見つかるのでしょうか。子どもの読み聞かせによく読み、コーヒーを飲むたびに「どろみずコーヒーにがかった」とセリフを言うくらいお気に入りの絵本です。なんとなく深い感じのお話を手にとってもらえれば、と思います。

借りた人からの感想： Torayaho

子どもが読めば、いろいろな展開があり、最後はハッピーエンドで楽しめる絵本だと思いました。でも、この本を“大人に読んでほしい”という“はちまま”さんの気持ち、よくわかりました。ぼくとシロのお別れシーン、ダリの態度にダリの心中を想像してみたり・・・

なんとなく深い感じを共有しているようで、楽しかったです。

図書館より：はちままさんから、「大人にぜひ読んでほしい」とのお話をいただきました。そのため、この本は大人用の福袋として提供いたしました。

「まほうの国の獣医さんハティ」シリーズ(クレア・テイラー・スミス/作；桑原 洋子/訳；kaya8/絵, KADOKAWA)

紹介文 みさき：ふだん、小学校で勉強・あそびをしています。

この本はハティがめずらしいどうぶつのびょう気をなおしてあげる本です。たのしい話なのでよんでみてください。

「名探偵コナン」シリーズ(青山 剛昌/著, 小学館)

紹介文 くるる：ふだん、おえかき、手芸、調理をしています。

みんなも読んで、笑いましょう！

『わんぱくだんのひみつきち』

(ゆきの ゆみこ/作；上野 与志/作；末崎 茂樹/絵, ひさかたチャイルド)

紹介文 TK：保育所にいっています。

とてもおもしろかった。

たのしかった/感動した本：大人の本

『闇の左手』（アーシュラ・K・ル・グィン/著；小尾 芙佐/訳, 早川書房）

紹介文 ぷくぷく：わたしは、ふだん、図書ボランティアをしています。

S F 小説です。両性具有の宇宙人とともに地球人が逃亡するサスペンスでありながら、人種、性別を超

えた人と人とのふれあいを描いた、ル＝グウィン（女性作家）の代表作です。ハデさはないけど、静かな感動を呼びます。

たのしかった/感動した本：大人の本・児童書

『図書館ねこのデューイ』（ヴィッキー・マイロン/著；羽田 詩津子/訳, 早川書房）
（児童書：ヴィッキー・マイロン/作；岡田 好恵/訳；霜田 あゆ美/絵, アスキー・メディアワークス
角川グループパブリッシング(発売)）

紹介文 Miya：わたしは、ふだん、ウィキペディアの編集をしています。

アメリカのある図書館にねこがいたそうです。

なまえは、デューイ。

わたしがいつも行く図書館にも、
こんなねこがいますてきだなあ！
と、おもいます。

借りた人からの感想： ちいず

図書館が好きな私。猫も好きです。

本のある風景や、猫の仕草を思い浮かべながら楽しく読みました。

でも、デューイには動物にいやされるだけでなく、特別な力があるようですね。

図書館に集まる人々をなぐさめ、支え、希望を与える。

世界中から彼に会いにくる人たち。

人間は何を求めているのが、まるでデューイに教えられるようでした。

すてきな図書館猫ですね！

図書館より：『図書館ねこのデューイ』は大人向けの本と児童書とがあります。今回はその両方を福袋にして、大人向けの本を借りた方から感想をいただきました。

たのしかった/感動した本：児童書

『おどる 12 人のおひめさま』（エロール・ル・カイン/画；やがわ すみこ/やく, ほるぷ出版）

紹介文 NORI：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

初めてこの本と出合ったとき「なんてキレイな本なんやろー!!!」と感動しました。12 人のおひめさま 1 人ひとりのドレスも少しずつ違ってきます。表情も豊かで、思わず笑ってしまうところもあります。ストーリーも楽しいですが、今回は是非「エロール・ル・カイン」さんの絵を楽しんでください。

借りた人からの感想： ラク

ストーリーは知っていましたが、ホント絵が素敵！！

ドレスの模様、デザインが違うのも、髪形や顔立ちが違うのもおもしろくて、ページをめくってもとにもどったりしながら楽しみました。

こんな風な本の楽しみ方があるんや〜と発見でした。

たのしかった/感動した/勉強になった本

『困ってるひと』(大野 更紗/著, ポプラ社)

紹介文 とんとんとんまのてんぐさん：元気でお人よしにしています。

大変な病気になってしまった人の体験記なのですが、
そのつらさや大変さよりも、
この人が持つユーモアや文章のうまさが印象的でした。
しなやかで強い女性ってこうなのかなと思わせられます。

借りた人からの感想： さんさんすいむ

普通の闘病記なら読まなかったと思う。

こんな本に出会ったのは初めてだ。いい意味でショックを受けた。ユーモアあふれる文章は本当に素晴らしい。難病の人が書いたとはとても思えない。感動ものです。一人でも多くの人に読んでいただきたい本です。

たのしかった/感動した/勉強になった/気持ちが楽になった本

山本一力さんの深川人情本(山本 一力/著, 文芸春秋)

紹介文 (名前なし)：ふだん、関西電力(株)南港火力発電所の事務所の清掃をしています。

現在の日本人が失った心の温かさが伝わる本です。すべての人は人によって成長させてもらっている。
図書館より：「山本一力さんの深川人情本」という紹介をいただきました。作家・山本一力さんの作品は江戸・深川を舞台にしたものが多く、いずれも高い人気を博しています。個別にタイトルを指定されませんでしたので、福袋の本は図書館で選びました。『あかね空』は爽やかな読後感が味わえるかと思っています。お楽しみください。

『悪の教典』(貴志 祐介/著, 文藝春秋)

紹介文 白い家：わたしは、ふだん、散歩をしています。

読み人によって評価が大きく分かれる本。主人公の大胆な行動に爽快感を得たり、悪趣味だと不愉快に感じる人もいるだろう。いずれにしても、無味乾燥な作品にはならないと思います。繊細な方は要注意、ホラー小説なので。

『群青』『桑港にて』『千の命』『千姫おんなの城』『黒鉄の志士たち』『命の版木』※すべて植松三十里の著作(『群青』, 植松 三十里/著, 文藝春秋), (『桑港にて』, 植松 三十里/著, 新人物往来社), (『千の命』, 植松 三十里/著, 講談社), (『千姫おんなの城』, 植松 三十里/著, PHP 研究所), (『黒鉄の志士たち』, 植松 三十里/著, 文藝春秋), (『命の版木』, 植松 三十里/著, 中央公論新社)

紹介文 ばばあさん：わたしは、ふだん、お話の会ボランティアをしています。

歴史小説ですが、『群青』を読み、日本海軍の礎を築いた男(矢田堀景蔵)が発した「私は歴史に名を

残さないことを、むしろ誇りに思う」。その姿勢に、私は感銘を受け、また植松の文章がうまく、読みやすく、引き込まれています。

また、『桑港』では、歴史上のヒーローの下にあって、名もなく彼らが歴史の一枚一枚のピースでなければ、歴史そのものが成立しなかったという、陽の当たらない人々のことも書いている。

歴史があって、今の私たちが存在し、いずれ私たちも歴史の一枚のピースとして・・・考えされられ、勉強になった本たちです。

借りた人からの感想： ラク

『千の命』を読んで

母として、心にせまるものがありました。

こういった人の努力のもとに今の医学があり、すべての物事が先人たちの努力を礎に作られていることを思いました。

娘たちにも読んでほしい本です。

借りた人からの感想： ラク

『千姫おんなの城』を読んで

茶々悪女説を信じていました。

歴史が勝者によってつくられることを考えさせられました。人間一人一人にドラマがあり、その思いがあることを感じました。

歴女の娘に紹介します。

図書館より：一枚のメッセージカードに植松三十里の著作を六点書いてくださいました。これをもとに六つの福袋を作成し、二点の感想を頂戴しました（たまたま同じ方からの感想になりました）。ここではまとめてご紹介させていただいています。

たのしかった/感動した/気持ちが楽になった本

大活字（池波正太郎）（池波 正太郎/著, 文藝春秋）

紹介文 CMG住吉：無職です。

借りた人からの感想： Lotus

オススめの方から「楽しかった、気持ちが楽になった」とあったので、ハッピーエンドな話を想像していました。一言で本を表現すると“せつない”です。

人間のやさしさ、弱さゆえ、世でいう“正義”さえも超え、大切な人を“守りたい”という気持ちが“法”をも破らせてしまう。そんな人間ドラマがいくつも散りばめられた作品でした。

せつないですわ～が感想です（笑）

図書館より：CMG 住吉さんからは「大活字本」で「『鬼平犯科帳などの池波正太郎の作品を』」ということとでリクエストをいただきました。そのため、鬼平シリーズ第1作目の文庫本と大活字本を1冊ずつ福袋にしました。

たのしかった/感動した/気持ちが楽になった本

『カラフル』（森 絵都/著, 文藝春秋）

紹介文 さっちゃん：わたしは、ふだん、会社員をしています。
人は、みんな違ってみんないい、という当たり前のことを教えてくれる本です。
世の中は、カラフルなものであふれている。
印象的な言葉がたくさんでできます！！

『風の靴』（朽木 祥/作；服部 華奈子/挿絵, 講談社）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。
児童書です。表紙とタイトルから、初めは少し地味な印象を持ったのですが、読んでみたら面白い！
中学1年生の少年が主人公のプチ冒険ものなのですが、私は、彼よりも途中から登場する大学生の青年の目線で読んでしまいました。日頃、損得勘定に振り回されてしまいがちな身の上には本当にグッとくる物語です。
ヨットや食べ物の描写も楽しいです。

たのしかった/勉強になった本：大人の本

『はなぼん』（花井 裕一郎/著, 文屋）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、住之江図書館で働いています。
長野県の小布施という町の図書館長をされていた方の本です。私は図書館業界の人間なので、とても勉強になりました。
著者の花井さんの物語としても楽しんでいただけたと思います。
「図書館の人」にとって、小布施はとても有名な町です。けど、あまり大阪で、図書館関係者でもない人の耳目に触れることはないと思います。「こんな図書館があるんだ」と思っただけだったらうれしいです。
ちなみに著者の花井さんの講演を聴いたことがあるのですが、『はなぼん』のイントネーションは「バカボン」と同じでいいそうです。

『トラウマ映画館』（町山 智浩/著, 集英社）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、住之江図書館で働いています。
映画評論家の著者が、子どもの頃にテレビなどで観た映画を紹介していく本です。
とりあげられている映画はどれもマイナー、というか現在では観ること自体が難しい作品もあり、それだけに作品そのものを観ていない人でもわかるようになっています。

『金春屋ゴメス』（西条 奈加/著, 新潮社）

紹介文 三月：わたしは、ふだん、主婦をしています。
時代小説好きですが、たのしく読めました。

「江戸」のたのしいところ、悲しいところがかくつきりしてて、多くの時代小説の舞台である楽園のような「江戸」って何だろう？と考えさせられました。

『日本全国「県境」の謎』（浅井 建爾/著, 実業之日本社）

紹介文 パレポリ：わたしは、地図を見るのが好きです

幼い頃、旅行などで親の運転する車に乗って出かけたとき、県境を越える瞬間にいつも妙にテンションがあがっていたことを思い出しました。

県境にいろんなドラマがあるなぁと感心する一方で、幼い頃の自分は変な子どもだったんだなぁと思いました。

たのしかった/勉強になった本：児童書

『かえるの竹取ものがたり』（俵 万智/文；斎藤 隆夫/絵, 福音館書店）

紹介文 NORI：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

かぐや姫のお話を俵万智さんがアレンジされたものです。

とても素敵なお話なのですが・・・なぜか、おじいさんもおばあさんとかぐや姫もみんなみんな「かえる」なんです。

ストーリーも、絵も、是非、楽しんでください。

『ジュニア空想科学読本』（柳田 理科雄/著；藤嶋 マル/絵, メディアファクトリー）

紹介文 H. K：わたしは、ふだん、おかあさんをしています。

アニメやドラマなどですごい設定がでくると、これは科学的にはどうなるのかというのを数学でわかりやすく教えてくれています。

子どものために借りた本ですが、私自身が読んで笑っています。今なら話題の「妖怪ウォッチ」。妖怪メダルで妖怪が呼び出せるとか、ジバニャンのひゃくれつ肉球の速さはどのくらいか、など・・・

楽しいけどタメになる本です。今の子からみたら少し古いマンガの話題が多いので、実は親世代の人が楽しんでいるのでは？

たのしかった/気持ちが楽になった本

『チェコアニメの巨匠たち』（エスクァイアマガジンジャパン）

紹介文 （名前無し）

最近は Youtube でも一部を見ることができるようになったが、まだまだ知られていないチェコアニメを紹介したい！人形アニメの持つ繊細な感性は日本文化に通じると思う。映像とともにご一読を。初期のティールロバー作品にも多くふれられており、魅力がわかりやすく紹介されています。

借りた人からの感想： 星の王子さま大好きバアバ

人形劇をしている人にはハッピーな本ですネ。

もうすぐ 75 歳の私は、目が弱っているので活字が小さくてギブアップ！！

20 年前に出会えたら、もしかしてのめりこんでいたかも知れませんヨ

『地下鉄』（ジミー/作・絵；宝迫 典子/訳, 小学館）

紹介文 （名前無し）

視力を失った少女の旅。私たちの人生を寓意する地下鉄のたび。世界は出口のない迷路かもしれないけれど、とてもカラフルで驚きに満ちている。行こうよと誘われる。いくども間違った電車に乗り、間違った駅で降りることがあっても。幸せはほんの近くに隠れている。つまずき迷いながらも、明日へ向かう勇気が与えられる一冊だ。

『金の言いまづがい』（糸井 重里/監修；ほぼ日刊イトイ新聞/編, 新潮社）

紹介文 ひったん：わたしは、ふだん、旅行をしています。

自分ではキチンと話しているつもりでも、はたで聞いているとアレっとなることはありませんか？そんな言いまちがい（タイトルは言いまづがい）を集めた、とても楽しい本です。電車で読むことはおススメできません。

『爆発道祖神』（町田 康/著, 角川書店）

紹介文 醒めた仕草で熱く見る人：南の島に行きたいと思っています

町田康さんの文章、特にエッセイを読んでいるときは、プールを潜水で泳いでいるような、たまに息継ぎをするような感じになります。

それがけっこう楽しくて、好きな作家さんです。

借りた人からの感想： ぽかぽか

この本を“面白いですよ”って紹介してくれた人のメッセージも面白かったです。普段なら絶対読まないであろう本を読むきっかけに感謝します。

この本は、こんな見方もあるんだなあって感じで面白かったです。

写真も楽しかった。

たのしかった/おもしろかった本

（「おもしろかった」と付け足して書いてくださいました）

「トリシア」シリーズ(南房 秀久/作；小笠原 智史/絵, 学研教育出版)

紹介文 A りん：わたしは、ふだん、小学生をしています。

トリシアシリーズは、とてもおもしろいです。私がいま読んでいる本の中で、一番おもしろいかも！トリシアが冒険したり、治療したり、魔法あり、笑いありの物語です。

感動した本 大人向け

『大地の子』（山崎 豊子/著, 文藝春秋）

紹介文 みいちゃん：わたしは、ふだん、図書ボランティアをしています。

故山崎豊子の大作のひとつ。

日本人の中国残留孤児を主人公に、戦争に翻弄された人々の運命を描いている。

作者の戦争への怒りや、親子・家族愛や恋愛心理など、長編だがラストまで一気に読ませる感動の作品です。

『沈まぬ太陽』『二つの祖国』『運命の人』もおすすめです。とにかく、スケールの大きさに圧倒されます。

『ロボット・オペラ』（瀬名 秀明/編著, 光文社）

紹介文 （名前無し）

ロボットという機械人形は人間が自らをシュミレーションした分身であり、物語としてのロボットは、人間のアイデンティティを様々なかたちで揺さぶる。あるときはルールに縛られた労働者であったり、またあるときは神話世界の神のごとき創造主であったりもする。800 ページと分厚いけれど資料的価値あり。物語が好きな人にぜひ読んでほしい一冊。

『泣ける川柳』（太田垣 柳月/編著, 開文社出版）

紹介文 （名前無し）

紹介文 なし

『鳥のように 川のように 森の哲人アユトンとの旅』（長倉 洋海/[著], 徳間書店）

紹介文 ふうさん：わたしは、ふだん、普通の生活をしています。

どこで目にしたのか、誰に聞いたのか忘れていたのですが、何年もしてから出逢ったんです。この本に！！

「私たちは子供にこう教えるのです。『地上にやってくる時には物音をたてずに鳥のように静かに降りたち、やがて何の跡も残さず空に旅立ってくのだ』と。『人は何かを成すために存在する』という西側哲学は銅像を作り、人の偉業を記録に残そうとしてきた。だけど、“人は何もしないために存在してもいいじゃないか”とおもうのです。生命を受け、生きていること自体が素晴らしいことなのですから」
ーアユトン・クレナックー

『ささらさや』（加納 朋子/著, 幻冬舎）

紹介文 z i z i

映画の原作です。映画は見ませんが、本を読みたいと思っていました。予想以上に感動しまし

た。死の世界から妻と子を見守る夫。本当にそんなことがあるのでしょうか。

『ジェニィ』(ポール・ギャリコ/著；古沢 安二郎/訳, 新潮社)

紹介文 住之江図書館の司書：住之江図書館で働いています。

高校の頃、昼休みになると学校の図書室に入り浸っていました。その雰囲気が好きで、3年間図書委員をやりました。出身地である京都の府立高校には司書の先生がいて、本のこと以外にいろいろと話し相手になってもらったのを覚えています。

2年生の文化祭の時、司書の先生が主催して、古本市が行われました。その時、その先生がご自分で持ってきた本のなかに『ジェニィ』がありました。男子高校生が手に取るような本ではないかもしれないけれども、私はこの本を持って帰って読みました。あたたかくて切ない感想を抱いたのを覚えています。今でも、実家にはこの本があると思います。2匹の猫の顔が描かれた表紙をみると、懐かしくて切ない、なんともいえない気持ちになります。

『樂園』(宮部 みゆき/著, 文藝春秋)

紹介文 (名前無し)：わたしは、ふだん、ジョギングをしています。

「宮部みゆき」ほかにも読みましたが、最近はコレ。本当に面白かった。すごい広がりを感じました。

『塩花の木』(金 鎮淑/著；裴姪美/訳；野木 香里/訳；友岡 有希/訳, 耕文社)

紹介文 T.G o k a：わたしは、ふだん、エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）のボランティアをしています。

1960 年、韓国のまずしい農村に生まれ、働き始めてから転々と変わった仕事と、そこで働く人々への愛に満ちた記録。そして、2010 年韓進重工業の 400 人の首切りにたいして 2011 年 1 月厳寒の中、高さ 35m のクレーンに登り、「解雇撤回」を訴えた。309 日間の彼女の決死の訴えに、のべ 1 万人の労働者、市民が「希望のバス」を 5 次にわたって呼びつけて駆けつけた。この世論が政治と企業・財界を動かし、解雇を撤回させ、地上に降りた。

煽動的な言葉ではないが、正義と連帯の情が湧き出るような、自伝的記録です。

『ナゲキバト』(ラリー・パークダル/著；片岡 しのぶ/訳, あすなろ書房)

紹介文 はちまま：わたしは、3 人の子と日々バトルをしています。

主人公が子どもだった頃を振り返って書かれた小説です。両親を事故で亡くし、祖父と暮らすのですが、その祖父が話し上手で、教訓めいたこともお話の中にまぜこんで聞かせてくれます。

生きていく上で大切なことを、染み入るように伝えてくれる本です。

『君と会えたから』(喜多川 泰/[著], ディスカヴァー・トゥエンティワン)

紹介文 よっしい：わたしは、ふだん、販売（食品）をしています。

自己啓発本はよくありますが、そういったものとは少しちがって、泣けます。あなたが若者であれば、これから生きていく道しるべを与えてくれるでしょう。たとえ年配の方でも、活力を与えてくれます。一度しかない人生だからこそ、自分らしい最高の一生を送ろうというメッセージが込められています。参考なれば・・・と思います。

『ワイルドソウル』(垣根 涼介/著, 幻冬舎)

紹介文 デイジー：わたしは、ふだん、ウィンドウショッピングをしています。

過酷なブラジル移住後の生活・・・から始まり、わくわくサスペンス、そしてロマンスと、楽しくハラハラし、感動する本です。

『縦ノ木は残った』(山本 周五郎/著, 新潮社)

紹介文 えっちゃん：わたしは、ふだん、絵本の会の活動をしています。

史実と言われているのとは違う解釈ですが、1人の男の生き方に感動しました。

『カフカの恋人ミレナ』(M. ブーバー=ノイマン/著；田中 昌子/訳, 平凡社)

紹介文 谷合佳代子@エル・ライブラリー：わたしは、ふだん、図書館司書をしています。

『変身』『審判』などで知られるチェコの作家フランツ・カフカ。そのカフカの恋人であったミレナ・イエセンスカはナチスの収容所でなくなりました。

カフカがミレナに送った膨大な手紙は『ミレナへの手紙』として世に知られ、二十世紀最高の書簡文学とも呼ばれています。

収容所でミレナに出会った著者ブーバー=ノイマンが描く知性とやさしさと反骨精神を最後まで失わないミレナの姿に感動します。困難な時代に毅然と生きた女性の伝記を是非、お読みください。

『99歳 ちりつもばあちゃんの幸せになるふりかけ』(たなか とも/著, じゃこめてい出版)

紹介文 あんちゃん：わたしは、ふだん、看護師をしています。

本屋さんで立ち読みして、図書館で借りて読んで、結局、買った本です。小さい頃の自分と、大人になった自分の両方を包み込んでくれる言葉がたくさんありました。フツウの毎日を愛しく感じ、また、今日から頑張ろうっていう気持ちになりました。読んでみてもらえたら、うれしいです。

『おしまいのデート』(瀬尾 まいこ/著, 集英社)

紹介文 002：わたしは、ふだん、子育てをしています。

いろんな形のデートが読めます。あったかい気持ちになります。じんわり涙が出ました。今一番のオススメの本です。

借りた人からの感想： SANA

とても良いお話がたくさんあってうれしかったです。

ランクアップ井はとてもいい話で涙が出てきました。
この本を見れてよかったです。
002さん、ありがとうございました！

『漁港の肉子ちゃん』(西 加奈子/著, 幻冬舎)

紹介文 mon8emon：わたしは、ふだん、主婦をしています。

『サラバ!』もよかったけど、西加奈子さんの本の中で一番好きです。是非よんでみてください。

借りた人からの感想： ピーターパン大好きバァバ

自分ではぜったい選ばない本。

でも、まあなにかのご縁で！

軽いけど、最後、ほろっとして、これはこれでgoodだね、でした。

『裏庭』(梨木 香歩/著, 理論社)

紹介文 さっちゃん：わたしは、ふだん、会社員をしています。

人生に迷った時や悩んだ時、前へ進む力をくれる本です。

読み終わったあと、少しだけ前を向いて歩こうと思えます。

『峠うどん物語』(重松 清/著, 講談社)

紹介文 mon8emon：わたしは、ふだん、主婦をしています。

とにかく読めた。

どんどん読めた。

上下2冊すぐに。

うどんをたべにいきたく

なりました。

借りた人からの感想： 住之江区の会社員

生と死という重いテーマですが、どの話も優しくあたたかい話に仕上がっています。読んでいて胸があつくなりました。

上巻では「おくる言葉」と「トクさんの花道」、下巻では「本年も又喪中につき」が良かったです。

上下2冊、あっという間に読めました。

感動した本：児童書

『北見からの手紙』(六田 登/著, 小学館)

紹介文 かなえ

小さい時に読んでいた『おひさま』という絵本雑誌に連載されていた読み物です。

幼くして亡くなった娘さんへお父さんが手紙を書いた形式のもので、美しい写真も交えた本です。

図書館に置いてあるとは思っていなかったのを見つけたときはとても嬉しかったです。
大人になった今、読み返してみると、最終回でうっかり泣いてしまいそうになりました。
お子様には少しむずかしい本かもしれませんが、すてきな本なのでオススメです。
お子様向けの読み物で、難しい漢字は平仮名で書いてあるなど、小さいお子さんにも読みやすいようになっています、親子で読んでいただくのもオススメです。

借りた人からの感想： ゆき

ひといきに読みました。
どうしてこの本は児童書なのかな、と思いました。
紹介して下さった かなえさん は、子どもの時に読まれたようですが、
どんな風に受けとめられたのでしょうか。
大人になり、親となって はじめて 読んだ私には、序盤、せつなく、苦しく、息が詰まるようでした。
でも、少しずつ、主人公の世界がひらけていく様子にすくわれました。
自分の力ではどうにもできない窮地に陥った時、
生きているというより、生かされている状態になった時、
不思議な力に導かれていくことがよくわかる本でした。
読んで よかったです。

『100 万回生きたねこ』（佐野 洋子/作・絵, 講談社）

紹介文 h i r o k u n : わたしは、ふだん、カレッジ通いをしています。
佐野洋子作・絵。あまり作家は好きではありませんが、作品が好きです。大人向きの絵本でしょう。死ぬことの意味がイメージされて本当に生きることの大切さを教えられる。あなたは 100 万回も生きて、死ねますか？

借りた人からの感想： カズ

自分がきらいと思う人と一緒にいても幸せな気持ちになれない。
それは、相手にも気持ちが伝わると思う。
相手のいやなところを見るより、好きな所をみつけて思いあって、
お互いが幸せになるように生きて行きたい。

『ロバのシルベスターとまほうの小石』（ウィリアム・スタイグ/さく； せた ていじ/やく, 評論社）

紹介文 ひったん：わたしは、ふだん、旅行をしています。
ロバの子ども、シルベスターはいろいろな石をあつめることが大好きです。なつ休みのある日、シルベスターはきみような小石を見つけました。シルベスターの思ったことが本当になったのです。でも、いいことばかりではなく・・・シルベスターの運命はいかに？？

『あんぱんまん』（やなせ たかし/作・絵, フレーベル館）

紹介文 いのけん：わたしは、ふだん、生活介護の仕事をしています。
云わずとしれた「それいけ アンパンマン！」の第一作目です。今から30年以上前の作品です。いま

とは一味違う変わった内容となっていますので、大人も子どももぜひ一緒に楽しんでください！

『パパはジョニーっていうんだ』

(ボー・R.ホルムベルイ/作；エヴァ・エリクソン/絵；ひしき あきらこ/訳, BL 出版)

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

子育てをしています。この本は両親が（おそらく）離婚して、父親と離れて暮らす男の子が、その大好きなお父さんと会う一日を描いたものです（面会交流というやつです）。子ども目線で淡々と描かれるのですが、とにかく切ない！子が親に寄せる愛情と、親が子に寄せる愛情があふれんばかりです。子育てがしんどくなった時に、よく読んでいます。大人の方向けにご紹介します。

『ライオンとであった少女』（バーリー・ドハーティ/著；斎藤 倫子/訳, 主婦の友社）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

児童書を紹介する仕事をしていた時にみつけた本です。

児童書とは思えない硬派な設定とストーリーに衝撃を受けたのを覚えています。

大人の方に、ぜひ！

借りた人からの感想：住之江区の会社員

泣きました・・・幼い少女が苦難に満ちた運命に立ち向かう姿を見て、どうか幸福になってほしいと思いながら読み進めました。

児童書ですが、大人の方にもっと読んでもらいたい本だと感じました。オススメです。

感動した/勉強になった本

『ソーシャルデザイン・アトラス』（山崎 亮/著, 鹿島出版会）

紹介文 （名前無し）

デザインは社会問題の解決につながる力をもっているのだということ。色鮮やかな世界中の人々の笑顔とともに、豊富な実例を目の当たりにすることができる本。カタチに魅せられた人は原広司『集落のすすめ』（図書館注：『集落の教え 100』かと思われます。）もおすすめ。

『走る哲学』（為末 大/著, 扶桑社）

紹介文 （名前無し）：わたしは、ふだん、ぷち陸上部をしています。

走り続けるために考えることが必要だったというアスリートの、自己省察に秀れたツイッター由来の一冊。ケータイ・スマホ世代の人にも、そうでない人にも向き合ってほしい一冊。見つめ直そう、人生の送り方！！

『木のいのち 木のころ』（西岡 常一/著；塩野 米松/聞き書き, 新潮社）

紹介文トリー

身近な人の活躍を支援してみませんか！！

『やわらかな心をもつ：ぼくたちふたりの運・鈍・根』

(小沢 征爾/[対談]； 広中 平祐/[対談], 創世記)

紹介文 ぷくぷく：わたしは、ふだん、図書ボランティアをしています。

世界的に有名な指揮者と数学者の対談です。語り口調なのでとても読みやすいですが、話している内容はとても納得…！！

天才というのは好きなことに集中して力を注げる人なんだなーと感心してしまいました。

“やわらかな心”で芸術はもちろん、今の教育のあり方についての本音が聞けます。

図書館より：大阪市立図書館で所蔵がなく、ご用意することができませんでした。

感動した/気持ちが楽になった本：大人の本

『クリスマスキャロル』（ディケンズ/著； 池 央耿/訳, 光文社）

紹介文 ユーミィ：わたしは、ふだん、事務員をしています。

毎日、同じ仲間と同じ仕事をしています。でも、時々人間関係に疑問を持ってしまうことがあります。そんな時にこの本を読むと、不思議にいやされて、また、もとの自分にもどることができる、私の大好きな本です。

借りた人からの感想： ふみき

有名な作品ですが、初めて読みました。

ユーミィさんのおっしゃるように、人間関係を見直すきっかけになりそうな本だと思いました。

やはり名作は細かい描写なども素晴らしいですね。

福袋を借りてみてよかったです。ありがとうございました。

感動した/気持ちが楽になった本：児童書

『ぼくを探しに』（シルヴァスタイン/作； 倉橋 由美子/訳, 講談社）

紹介文 NORI：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

“何かが足りない それでぼくは楽しくない 足りないかけらを 探しに行く ころがりながら ぼくは歌う”

子どもも楽しめる絵本ですが、是非、大人の方にも読んでほしいです。

だれだって完璧じゃないけど、いいんやなあ・・・って思いました。

読んだ後、歌いたくなります。ぜひ、どうぞ。

借りた人からの感想： いるか

子どもと一緒に読みました。

私は、結婚と離婚のように感じました。

読む人によって感じ方が、同じ人でも年齢によって違うから面白いなあと思います。

『チェロの木』（いせ ひでこ/[作], 偕成社）

紹介文 （名前無し）：わたしは、ふだん、ボランティアを色々としています。

ぜひ、声に出して読んでみてください。いせひでこさんの絵と文章に癒されました。

借りた人からの感想： こま

すごくべんきょうになりました。

たのしくよめました。

『おじいちゃんの木』（内田 麟太郎/ぶん；村上 康成/え, 佼成出版社）

紹介文 ふるちゃん：わたしは、ふだん、図書ボランティアをしています。

子猿のモンちゃんが“きこりん きこりん”と自転車をこいでいくのどかな愛らしさと、最後のモンちゃんの言葉で意表をつき「あ〜そうなんだ」と最後は感動。

かけがえのない命のつながりについても考えさせられました。村上氏の絵にもいやされましたよ。

勉強になった本：大人の本

「LIAR GAME」シリーズ

（甲斐谷 忍/原作；古家 和尚/脚本；高山 直也/脚本；吉高 寿男/脚本；浜崎 達也/小説, 集英社）

紹介文 青いひよこ：わたしは、ふだん、学生をしています。

라이어ゲームは人が大金をかけてあらしうゲームですが、ある少年が信じあえるゲームへと変えていく物語です。そして信じあう大切さが学べるゲームだと思います！！

図書館より：図書館ではこの漫画を所蔵しておらず、小説版を所蔵しています。これを福袋にしようと思ったのですが、予約が多く、期間中にご用意することができませんでした。

『大阪の近代・大都市の息づかい』（大谷 渡/編著, 東方出版）

紹介文 T.G o k a：わたしは、ふだん、エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）のボランティアをしています。

本書は「関西大学大阪都市遺産研究センター」の7名による研究成果です。というのとつつきにくく聞こえるが、近代大阪の息づかいが多方面にわたって感じられます。目次を紹介するだけで、その多彩さが読み取れます。

（以下省略）

図書館より：**紹介文**にはこの後、本書の目次が書かれていましたが、ここでは省略させていただきました。

『「体を温める」と病気は必ず治る』(石原 結実/著, 三笠書房)

紹介文 まいまい：わたしは、ふだん、会計事務の仕事をしています。

仕事で1日中パソコンに向かっていて、肩こり、腰痛に日々悩まされていました。この本を読んで、しょうが紅茶と朝食を食べない、ウォーキングをためしたところ、体温が35℃台から36℃台に上がり、肩こりも感じなくなりました！！しょうが紅茶、本当にすごいです！興味のある方、ぜひ試してほしいです。

『体がよろこぶ季節のごはん』(ウー ウェン/著, 家の光協会)

紹介文 まさやん：わたしは、結婚して料理をはじめようになりました。

料理をはじめたてで、炒め物をおいしく作れるようになろうと思って借りました。中華料理のちょっとしたコツがたくさん散りばめられているので、とても参考になりました。3回くらい借りましたよ。トマトの炒め物はよく出てくる献立になりました。ぜひ☆

借りた人からの感想：かあちゃん

料理本は何度も借りていますが、中華料理の本は初めてだったので、とても参考になりました。

きゅうりと豚肉の酢じょうゆ炒めや、あじとみょうがの煮物など、手順もかんたんで作りやすく、何度も作りたいと思います。

ありがとうございました。

又、借りたいと思います。

『史上最悪のインフルエンザ』(アルフレッド・W. クロスビー/[著]；西村 秀一/訳・解説, みすず書房)

紹介文 パレポリ：お酒と料理が好きで、よくたしなんでいます。

1918-19年にかけて世界中で大流行したインフルエンザに関する本です。記録を丹念にあたり、細やかに描かれる当時の様子はすごい！の一言です。なによりもこのテーマ、この分量なのに読み飽きないです。

『醤油鯛』(沢田 佳久/著, アストラ)

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、住之江図書館で仕事をしています。

出前のおすしについてきたりする、あの醤油の入れモノの本です。ネタで勝負する本かと思いきや、中身は本格的。妥協のない著者の姿勢には頭が下がります。

『代表制という思想』(早川 誠/著, 風行社)

紹介文 かし：わたしは、ふだん、私大教員をしています。

先日の統一地方選挙前半戦では、多くの議会選挙で裁定投票率を更新し、定数の2割は無投票だったという報道もあります。議員の方も、号泣議員に本会議欠席の前日の呑みなど、「国民・市民の負託を受けた者」の資質が問われています。

選挙によって市民の代表を選ぶという民主主義のあり方そのものが問われている今日、代表を選んで政治的な決定を委ねる仕組み（＝代表制）の意義を平易に解説してくれる本です。

『ドライブイン蒲生』（伊藤 たかみ/著, 河出書房新社）

紹介文 （名前無し）

近くて遠く、もどかしくもある家族とは、まっすぐには捉えがたい、むき出しの感情にありきたりでない言葉を与えるには、相当の魔法が要る。言葉の向こうの虚ろな空洞にまっすぐ引き込まれていく。抱いていけない悪い感情なんてない。そこにあるものに丁寧に名づけ、その繊細さのままに留め置いた家族の情景が走馬灯のように浮かぶ物語。

借りた人からの感想： （名前無し）

この本を紹介していただき、有難うございました。

教えて頂かないと、きっと読む機会がなかったと思います。

「ドライブイン蒲生」は読んだ後、ズシンとお腹にこたえるような感じがしました。

「無花果カレーライス」は、この母親ほど病的ではないけれど、イライラして幼い子にあたることになかったとはいえないなと思いました。

2作品とも、やりきれなさが残るところがありましたが、「ジャトーミン」で少しホッとしたような気がしました。

作者の表現力はスゴイと思いました。

『100の思考実験』（ジュリアン・バジーニ/著；向井 和美/訳, 紀伊國屋書店）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、図書館で仕事をしています。

普段どおりの暮らしでは、なかなか気付かないモノの見方や考え方のツボを刺激してくれる。そんな本です。

『不動の身体と息する機械』（立岩 真也/著, 医学書院）

紹介文 （名前無し）

ALSという病については、三浦春馬主演のTVドラマにもなった。生存のための行いを自らできなくなることは生存の価値を凌駕するものなのか。あらゆる手段を使っていきなさいと丁寧に語る。思い出すのは大沢たかお主演の映画にもなった「解夏」。だんだん見えなくなる恐怖と、ついに見えなくなるときの再出発。引用された多くの証言が、ドキュメンタリーとしての光を放っている。生きることを考えさせられる本。

借りた人からの感想： （名前無し）

袋から本を取り出す前は、読みきれのかなと思っていました。タイトルをみて、必ず最後まで読むと決めました。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病について、これだけ、いろいろな人の考えや実際のできごとに触れたのは初めてです。ご本人・家族の想いや決断が、具体的に述べられていました。

私の知人でも、13年前にこの病気を発症された方がいます。ほんの数ヶ月で人工呼吸器を装着し、意

思の疎通が図れなくなってしまう、ご家族からの連絡が途絶え、10年近く会っていません。この病名を聞かされた時に、どうされているかと思っています。同時期に、私も神経の麻痺で入院していたため、いつ誰に起きてもおかしくないことであり、本当に苦しい病気です。

私は今、看護師として働いています。難病以外でも表現のできない方はたくさんいらっしゃいます。個人として、職業人として、いろいろ考えさせてもらいました。そして、多くの人にもっと知っていただきたいですね。

すすめてくださった方、ありがとうございました。

同じまちに住み、図書館福袋での出逢いに感謝です。

『ミザリー』（スティーヴン・キング/著；矢野 浩三郎/訳, 文藝春秋）

紹介文（名前無し）：わたしは、ふだん、ウォーキング

映画が面白く、原作も読んでみたのですが、10倍面白かったです。スティーブン・キングを読むきっかけになりました。

『未来の図書館、はじめませんか？』（岡本 真/著；森 旭彦/著, 青弓社）

紹介文 住之江図書館の司書：わたしは、ふだん、住之江図書館で働いています。この企画を作りました。

図書館で働いているので「図書館がまちにあることの意味」みたいなことをよく考えます。ただ本を借りて読むとか、居心地のいい空間をつくるだけじゃなくて（それも大切ですけど）、図書館を訪れた人が、もっといろんなものをつながりあえるような、そんな活動ができれば（この福袋企画も、そんな考えから生まれました）。この本は、そんな私にとってのヒントがあちこちにあります。で、こういうヒントになるものは「図書館の中の人」だけじゃなくて、色々な立場の人にもっといただけるといいんじゃないかなあ、と思って選びました。著者は元 Yahoo!社員さんで、「Yahoo!知恵袋」をつくった人です。何度かお会いしたことがあるけど、マジメでオモシロい人です。

勉強になった本：児童書

『どんぐりむらのパンやさん』（なかや みわ/さく, 学研教育出版）

紹介文 プリンセツ：わたしは、しょうがくせいです。

この本はすごくべんきょうになりました。ぜひみてください。

借りた人からの感想：メガミュウツーX

とてもおもしろかったです。

とくに、あたらしく子どもが、とても大きいパンをつくったのが、ヒントになったのがおもしろかったです。ニュースにでるのはめずらしいので、とてもすごいと思いました。5ページ目の自転車が木でできているので、いなかじゃないかなと考えました。もうスピードでようち園へむかうのはしんどそうでした。

勉強になった/気持ちが楽になった本

『空飛ぶ広報室』（有川 浩/著, 幻冬舎）

紹介文 ふみき：わたしは、ふだん、2児の母&妻&編集ライターをやっています。

有川浩さんの作品はどれも読後感がさわやかでおすすめです。

この本は「なりたいものになれなくても他のなにかになれる」という、当たり前のように気付いていなかったことを教えてくれました。

日常で漠然と「これでいいのかな」と思っていた私の気持ちを楽にしてくれました。

自衛隊のこともよく知らなかったことばかりで勉強になりました。

気持ちが楽になった本

『おなかほっぺおしり』（伊藤 比呂美/著, 中央公論新社）

紹介文 s a w a：わたしは、ふだん、資料館の職員をしています。

もう28年も前の作品ですが、2011年に完全版が文庫になって出されたことからわかるように今なお内容は古びない育児書のベストセラーです。この本からのメッセージは

- ・育児は適当でも大丈夫
- ・子どもはひとりひとり違う

言葉で書くと当たり前のようですが、詩人でもある作者の独特の絵と表現は素直に心にしみこんできます。

なんといってもユーモアにあふれたエッセイはとにかく読んで楽しくおもしろいのです。

自分自身の育児の支えになった作品のひとつです。今から育児する方、今育児されている方には、特におすすめです。

借りた人からの感想：はこべ

ドンピシャ！まさに真っ只中。3人の小さな人を育てている私です。

同じまちに住む先輩お母さんからのメッセージが心強く、うれしく読みました。

うん、うん、共感することばかり。

私だけじゃないんだなー

子どもってかわいい。子どもってうるさい。子どもって・・・スゴイ。

口にするのはばかりのいろんな想いを、みんな表現してくれていて、スーッとしました。

完全な、できあがったお母さんを目指さなくても、毎日散らかったり、汗と涙でグチャグチャになりながら、親と子はいっしょに育っていく。それでいいんですよね。ありがとう。

よし、また今日から、残りの輝く日々を味わってきます。

『四十九日のレシピ』（伊吹 有喜/著, ポプラ社）

紹介文 リリー：わたしは、ふだん、接客業をしています。

大切な家族が亡くなったとき、四十九日まではどう過ごしますか。亡き母、乙美の思いが少しずつ伝わ

ってきます。

『セブンイヤーズ・イン・チベット』(ハインリヒ・ハラー/[著]；福田 宏年/訳, 角川書店)

紹介文 紅茶：わたしは、ふだん、会社員をしています。

捕虜収容所からの脱走に成功するも、長くて長い、辛い逃亡生活。そしてたどり着いたチベットで、少年ダライ・ラマとの出会い。人生は苦しいけれども、捨てたものではないと思わせてくれる一冊です。

『新美南吉童話選集1』(新美 南吉/作；黒井 健/絵, ポプラ社)

紹介文 ツッチ：わたしは、ふだん、地域でボランティアをしています。

いろいろな本との出会いはとても素敵です。言葉が私の心に入って来て、私を豊かな心にしてくれます。

おもしろかった本（「おもしろかった」と付け足して書いていただきました）

「サトミちゃんちの8男子」シリーズ

(矢立 肇/原案；こぐれ 京/著；ぱらふいんピジャモス/企画協力；久世 みずき/絵, 角川書店)

紹介文 Aりん：わたしは、ふだん、小学生をしています。

この本を読んで、本当の「南総里見八犬伝」を読みました（角川つばさ文庫）

「サトミちゃんちの8男子」おもしろいので、ぜひ読んでください。

図書館より：福袋には第1巻を入れました。

「いみちえん！」シリーズ(あさば みゆき/作；市井 あさ/絵, KADOKAWA)

紹介文 Aりん：わたしは、ふだん、小学生をしています。

いみちえん！は「意味チェンジ」という意味です。あらすじは、悪いやつらが黒い札に邪魔になるものの漢字を書いて投げてきたり、友達に黒い札をはって操ったりしてきます。

その漢字を邪魔にならないものや、効果を消すような感じに「いみちえん」する話です。

私は、これを読んで習字に興味がわいて、今では習っています。

図書館より：福袋には第1巻を入れました。

大好きになった本（「大好きになった」と付け足して書いていただきました）

『悼む人』(天童 荒太/著, 文藝春秋)

紹介文 C O C O

たまたま、皆で読書をする会で紹介していただいた本です。読んだ後の感想は、若い頃にアンドレイ・タルコフスキーの「サクリファイス」など、ヨーロッパ映画を見た後と同じように自問自答してしまう重い本でした。「人の死」というか「生き方」というか、そういった大きなテーマについて誠実に書か

れているところが好きです。人の生はそんなに簡単には書けないといった余韻を持たせた終わり方も好きです。あれから四年半近くになりますが、忘れられない作家です。今年 2 月に映画化されましたが、まだ見ていません。

あなたがえらぶ図書館福袋

まちライブラリー-OSAKA BOOK FESTA +2015 参加イベント

平成 27 (2015) 年 4 月 18 日 (土) ～5 月 17 日 (日)

大阪市立住之江図書館
大阪市住之江区南加賀屋 3-1-20
電話 06-6683-2788